

令和6年度 大田市地域包括支援センター業務実績

1. 職員体制

(人)

	正 規	嘱 託	計
主任介護支援専門員	3	1	4
保健師	2		2
保健師（市より派遣）	1		1
社会福祉士	3		3
介護支援専門員	5	3	8
事務		2	2
事務（市より派遣）	1		1
計	15	6	21

※主任介護支援専門員にはセンター長を含む。

2. 業務内容

(1) 相談・支援等業務（総合相談支援業務、権利擁護業務、包括的・継続的ケアマネジメント支援業務、高齢者把握事業）

①相談等対応件数（重複あり）

- ・介護保険その他の保健福祉サービスに関すること/1,037 件
- ・認知症に関すること/119 件
- ・医療に関すること/82 件
- ・権利擁護(高齢者虐待等)に関すること/95 件
- ・高齢者実態把握/420 件
- ・その他/408 件（ケアマネ支援、苦情対応等）

②民生・児童委員との連携

より連携を強化していくため、新体制となった地域包括支援センターの周知及び顔の見える関係づくりのため、各地区2～3回会議に出席した。

また、高齢者をどう支えるかについて話し合う中で、独居や高齢夫婦世帯の情報共有や地域課題について話し合いを行った。

会議出席回数：22回 出席者数：312人

③権利擁護

- ・高齢者虐待対応
相談・通報件数（養護者による）：12件 虐待認定件数：7件
- ・高齢者虐待防止等啓発研修
事業所向け研修(出前):1回、参加者数(33人)

事業所向け研修(集合):参加者(1部: 41人, 2部: 33人)

(2) 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業

①ケアプラン作成数(年間延べ件数)

区分	センター作成分	委託分
介護予防支援	2,867件	2,851件
介護予防ケアマネジメント	1,036件	613件
計	3,903件	3,464件

②自立支援のためのケアマネジメント推進

大田市介護サービス事業者協議会居宅介護支援部会と大田地域介護支援専門員協会と連携し、主任介護支援専門員に対するスーパービジョンの研修会を開催

- ・開催日: 令和6年9月12日
- ・講師: 美作大学 田中 涼氏

(3) 介護予防普及啓発事業

①介護予防教室実施状況

開催日	実施地区	対象者	テーマ	参加者数
6/17(月)	鳥井町	町民	介護予防 熱中症予防	12名
7/17(水)	五十猛町	通いの場登録者	介護予防 ACP	21名
7/31(水)	川合町	通いの場登録者	介護サービス 熱中症予防	30名
11/21(木)	大代町	通いの場登録者	認知症を知る・相談する・ 防ぐ	14名
12/8(日)	久手町	寺院門徒	介護予防 ACP	20名
1/30(木)	温泉津町 井田地区	通いの場登録者	認知症を知る 物忘れの予防	14名
3/5(水)	静間町	民生・児童委員	介護保険制度	12名

(4) 認知症総合支援事業

①認知症初期集中支援チーム員会議の開催状況

- ・開催回数/9回(毎月第4木曜日 18:00~19:00)
- ・チーム員/サポート医3、作業療法士1、主任CM4、社会福祉士3、保健師3
- ・検討事例数/相談・紹介ケース21件、初期集中ケース0件
- ・その他(情報交換等)/各種講演会、啓発事業、治療最新情報など

②認知症地域支援推進員の業務

- ・世界アルツハイマー月間の取組（パネル展示、啓発チラシの配布など）
- ・大田圏域認知症連携型疾患センターとの連携（講演会の共催実施、定例会議）
- ・認知症カフェ開催運営支援
- ・各医療機関への啓発

③その他住民啓発活動

啓発チラシの配布、大田市立病院 病院まつりでの啓発活動、介護予防教室での認知症をテーマとした講話など

(5) 地域ケア会議推進事業（個別会議・自立支援サポート会議）

①実施状況

	居宅介護支援 事業所	地域包括支援 センター	小規模多機能型 居宅介護
実施月	6月～12月：事例検討および評価、1月～2月：評価		
開催日	第2月曜日	第4月曜日	1月
検討事例数	12	8	2
事例の内訳			
1) サービス未利用で支援を必要とするケース	2	1	0
2) 支援が自立を阻害していると思われるケース	0	0	0
3) 支援者が困っているケース	5	3	1
4) 支援者のための資源調整や環境整備が必要なケース	5	3	1
5) 高齢者の心身の健康や権利が侵害されるケース	0	1	0

②各事例における主な個別課題

- ・主介護者が高齢で急になくなった場合の対応
- ・認知症の方の在宅生活を支える手段が少ない
- ・インフォーマルサービスの不足
- ・自助、互助へのアプローチの仕方
- ・対象者と地域との関わりが疎遠
- ・家族間で将来（今後）について話し合いがされていない
- ・経済的な問題でサービスが不足している
- ・身体変化に対する対応
- ・主治医、医療機関との連携不足
- ・食事の偏りによる諸問題

③まとめ

■ケアマネの視点の転換

- ・サービスありきでなく、対象者（利用者）の残存機能確認・利用
- ・他機関との連携（主治医・家族・地域）
- ・本人の意思確認手法の習得（アセスメント能力、将来を見据えた聞き取り力）

■主介護者（家族・親戚）との関わりの重要性

- ・本人の意思と主介護者の思いをどうつなげるか
- ・主介護者の思いが優先ではなく、本人の意思をどう拾い上げるか、本人と主介護者の結びつけを模索する
- ・主介護者不在時（独居等）の対応。関係機関でできることを整理する。

■地域とのつながり・地域資源

- ・人口減少、高齢化における担い手不足、地域力低下
- ・商店や診療所、金融機関等の減少に対する生活の不自由さ
- ・民生委員等とのつながりの重要性

(6) 認知症サポーター養成事業

①養成講座の実施状況

	開催日	会場	受講者数
定例講座	6/20（木）	大田市民センター	8名
	8/22（木）		7名
	10/17（木）		9名
	12/19（木）		7名
出前講座	7/4（木）	サンシルバーさわらび	7名
	9/4（水）	職業訓練センター	7名
	9/6（金）	邇摩高校	12名
	12/6（金）	温泉津まちセン	8名
	1/14（火）	生協しまね大田支所	17名
	1/19（日）	長久まちセン	19名
	1/21（火）	温泉津町小浜会館	28名
	2/4（火）	大田小学校	68名
	3/3（月）	大田市民センター	8名
	3/18（火）	邇摩高校	15名
計			220名